

外為マンズレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2016/07/01

英国とEUの交渉に注目

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	➡	原油価格の動向にも注目 予想レンジ: 74.000 ~ 80.000 円	2 - 3
NZドル/円	➡	リスク回避が強まれば利下げ観測も 予想レンジ: 71.500 ~ 76.500 円	4 - 5
ランド/円	➡	上昇時はゆっくり 予想レンジ: 6.500 ~ 7.300 円	6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

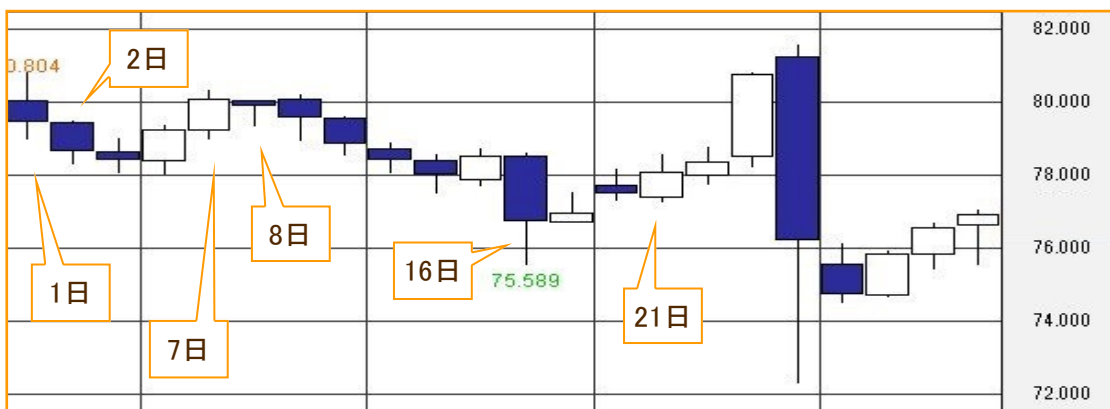
Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 6月の推移

AUD/JPY

6月の豪ドル/円相場は72.339～81.561円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約3.9%の下落(豪ドル安・円高)となった。

月上旬は原油価格や、豪州の各種指標結果、豪中銀(RBA)の声明などを見て方向感がさほど出ない展開だったが、中旬に入ると、英国で23日に行われる欧州連合(EU)離脱を問う国民投票に向けた世論調査に金融市場全体が一喜一憂する展開となった。離脱派優勢が伝えられる中でリスクオフムードが強まると豪ドル/円は軟化し、残留支持のコックス議員殺害事件以降に残留支持が増加すると再び切り返す、という動きとなった。しかし、日本時間24日に入って、開票されていく国民投票において、離脱支持派の優勢が伝えられ、市場が一気にリスクオフムードに傾くと、豪ドル/円は急落。72.339円と、2011年10月以来の安値を付けた。ただし、恐慌状態となった24日から週をまたぐと、次第に市場が落ち着き、豪ドル/円も76円台を回復した。



四本値

OPEN	80.038
HIGH	81.561
LOW	72.339
CLOSE	76.930

1日	豪1-3月期国内総生産(GDP)が前年比+3.1%と市場予想(+2.8%)を上回った事を受けて豪ドル/円は80.804円まで急上昇。しかし、その後は短期筋とみられるドル/円の仕掛け売りなどによって上げ幅を消した。
2日	豪4月貿易収支が15.79億豪ドルの赤字(予想:21.00億豪ドルの赤字)となり、豪ドル/円は79.40円台まで値を上げるも、同時に発表された豪4月小売売上が前月比+0.2%と予想(+0.3%)を下回ったため、買いの動きは一時的。その後は日経平均の下げや、石油輸出国機構(OPEC)が原油生産目標設定を見送った事を受けてNY原油先物が急落して48ドルを割り込んだ事が重石となって、78.30円台まで値を下げた。
7日	RBAは政策金利据え置きを発表。声明文では「金利据え置きは持続可能な成長と整合的」「金融市場の関心は複数のイベントリスクに移行」「低金利は需要を支援」「最近の指標は豪経済の成長が続いている事を示唆」「インフレ率はしばらくの間かなり低い状態が続く」「住宅価格が最近再び上昇し始めている」「かなりのアパート供給が特に東部の都市で今後数年にわたり予定されている」などとした。金利据え置きは市場の大方の予想通りだったものの、ごく一部に利下げ予想があった他、声明文の内容が近い将来の追加利下げを示唆するものではなかった事から、発表後の豪ドルは上昇。さらにその後、産油国ナイジェリアの政情不安を背景にNY原油価格が50ドル台を回復する中、豪ドル/円も上値を拡大した。
8日	日経平均が安寄りすると、ドル/円を中心にまとまった円買いが入り、クロス円も軟調に推移。しかし、中国で発表された5月貿易収支において、黒字額は499.8億ドルと予想(557億ドル)に及ばなかったものの、輸入が前年比-0.4%と市場予想(-6.8%)よりも減少幅がかなり小さかった事を好感して、豪ドル/円は反発。さらに、中国の貿易収支の結果やナイジェリアの政情不安を背景とする供給懸念から原油高が進んだ事も豪ドル/円の追い風となった。
16日	日銀が金融政策の現状維持を発表すると、大方の予想通りではあったものの円高が進行。その後、英国の国民投票に向けた世論調査において離脱支持派が45%と残留支持(42%)を上回った事から、リスクオフムードが強まり、豪ドル/円は75.589円まで値を下げた。しかしその後、NYダウ平均が切り返した他、英国のEU残留を支持するコックス議員が殺害された事を受け、残留派に同情票が集まるとの見方からリスクオフムードが緩和し、豪ドル/円は下げ幅を縮めた。なお、この日に発表された豪5月雇用統計は、失業率が5.7%、新規雇用者数は1.79万人増、労働参加率は64.8%と強弱まちまちの結果(予想:5.7%、1.50万人増、64.9%)で、豪ドル/円の反応は限定的だった。
21日	日経平均の上昇を受けて朝から豪ドル/円は上昇。さらにRBAの理事会議事録では「6月の金利据え置きは持続可能な成長と整合的」「雇用の伸びは鈍化したがる、ほぼ予想通り」「インフレ見通しは当面低水準、インフレ期待は平均を下回る」「2013年からの豪ドル安と低金利により、第1四半期は潜在成長率を上回る成長」などと、声明とほぼ同様の内容となった。発表直後の豪ドルは、一部の利下げに向けたハト派寄りの内容を期待した向きによる買いで上値を伸ばした。

AUD/JPY

日経平均

OPEN	17097.22
HIGH	17145.95
LOW	14864.01
CLOSE	15575.92

NYダウ平均

OPEN	17754.55
HIGH	18016.00
LOW	17063.08
CLOSE	17929.99

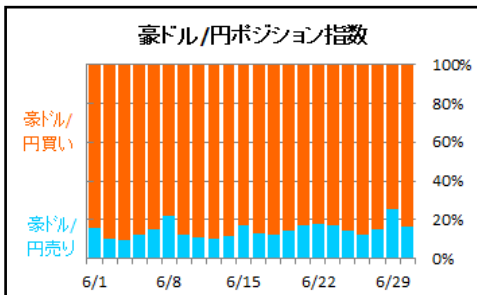
上海総合指数

OPEN	2917.154
HIGH	2945.942
LOW	2807.597
CLOSE	2929.606

豪10年債利回

OPEN	2.298%
HIGH	2.338%
LOW	1.952%
CLOSE	1.981%

6月のポジション動向



7月の豪州・中国の注目イベント

- ・6月中国財新製造業PMI(1日)
- ・5月豪住宅建設許可件数(4日)
- ・5月豪貿易収支(5日)
- ・5月豪小売売上高(5日)
- ・RBAキャシュターゲット(5日)
- ・6月中国消費者物価指数(10日)
- ・6月中国貿易収支(13日)
- ・6月中国鉱工業生産(15日)
- ・6月中国小売売上高(15日)
- ・6月豪雇用統計(14日)
- ・RBA議事録(19日)
- ・4-6月期豪消費者物価(27日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

7月の見通し

7月のRBAの理事会に関しては、月初の時点で利下げを予想する向きはなく、豪ドル相場の子な手掛かり材料は主に英国のEU離脱に関する動向を受けたリスク許容度の様子、そして原油価格になるだろう。

前者に関しては、英国とEUの交渉の状況について、関連報道を見ていくしかない。キャメロン首相は辞任し、次の首相に交渉を一任する意向を示しているが、9月までは在任する見通しで、交渉がすぐに進むとは考えにくい。しかし、EU諸国は英国に正式な離脱通告をすぐにすべきとの認識を示しており、摩擦は避けられないだろう。また、英国国内においても国民投票のやり直しを問う声や、スコットランドや北部アイルランドが独立してEUに残留しようとする動きがあり、また次期保守党党首選の行方など、まだまだ混乱の最中である。さらにEU内においても、EU離脱を叫ぶ右派が活発化している国が複数ある。

7月月初の段階で英国絡みの先行き不安を背景とするリスク回避ムードに一服感が出ており、この状態が継続するならば、豪ドル/円は「リスクオン」とは言わないまでも、80円付近までさらに下げ幅を圧縮する動きになる事はあり得そうだ。しかし、前述のようなリスク要因視されかねない芽が金融市場のあちこちに散らばっている事を考慮すると、リスクオフムードがひとたび広がれば、豪ドル/円が急失速する可能性がある事は認識しておきたい。

原油価格に関しては、各所の在庫減などもあって、英EU離脱騒動を背景とする需要減見通し→原油安の流れは一服している。これが豪ドルが他の通貨よりも戻りが大きめになった主要因だが、今後、英国絡みの混乱・不安が再燃すれば、再び軟調に推移し、豪ドル/円の重石となると見られる。再度リスクオフとなれば、再び6月安値を試す事もあり得るだろう。もちろん、産油国の生産状況に関わる報道も、原油価格の手掛かりとなり、豪ドル/円にも影響してこよう。併せて注目だ。(石川)

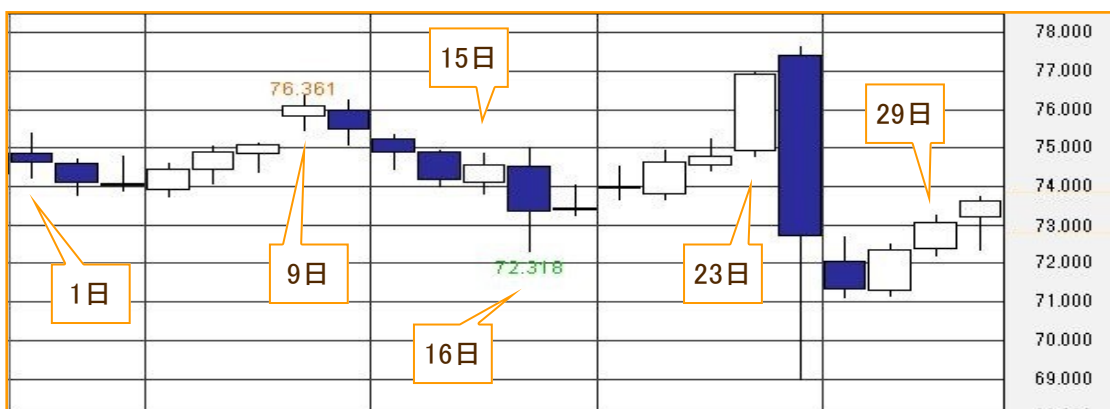
(予想レンジ: 74.000~80.000円)

NZドル/円 6月の推移

NZD / JPY

6月のNZドル/円相場は69.006～77.650円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.7%の下落(NZドル安・円高)となった。

この月は英国の欧州連合(EU)離脱を問う国民投票に関する報道を受けた市場のリスクオン・オフに振られる展開だった。9日早朝にNZ中銀(RBNZ)が市場予想が利下げと金利据え置きに割れる中で金利据え置きを発表した上、近い将来の利下げを示唆することもなかった事から一時76.30円台まで上昇したものの、その後は英世論調査でEU離脱支持が強まっている事が報じられる中で軟調に推移。それでも国民投票当日が近づくにつれて残留支持が増え、NZドル/円は他のクロス円と同様に切り返したが、英国国民投票の結果が24日に出て、離脱支持派勝利となると、リスクオフムードが急激に広がり、NZドル/円は69.006円と、2012年12月以来の安値を付けた。ただ、英国のEU離脱に関する初期のリスクオフムードに一服感が出ると、NZドルは買戻しが進み、73円台まで値を戻した。



四本値

OPEN	74.865
HIGH	77.650
LOW	69.006
CLOSE	73.643

1日	短期的な円の仕掛け的な買いや、安倍首相が消費増税延期を正式に表明した材料出尽くし感から日経先物やドル/円が下げる中、NZドル/円も軟調だった。NZ乳業大手フォンテラの電子入札GDTの物価指数が前回比+3.4%と上昇したが、NZドルの反応は限定的だった。
9日	日本時間6時頃、NZ中銀が政策金利の据え置きを発表。声明では「更なる緩和が必要な可能性」「低い商品輸出価格を考慮すれば為替は適切な水準より高い」「NZドル安は交易財のインフレを上げ、交易セクターを支援」「インフレは緩和的な金融政策や燃料その他商品価格の上昇、NZドル安期待などを反映して上昇すると予想」とした。そもそも利下げ予想と据え置き予想で市場は割れていた上、前回に比べてもより近い将来の利下げを示唆する声明でなかった事から、発表後のNZドル/円は急騰。ただ、その後は大きな方向感は出なかった。
15日	乳業大手フォンテラの電子入札GDTの物価指数は前回比±0.0%と変動がなく、NZドル相場では特に反応は見られなかった。
16日	NZ1-3期国内総生産(GDP)は前期比+0.7%(市場予想:+0.5%)、前年比+2.8%(同:+2.6%)と予想以上に強い結果となった。これを受けてNZドル/円は75.047円まで上昇。しかし、日銀が金融政策の現状維持を決定すると、市場予想通りではあったものの円高が進行。さらに英国の世論調査において、23日に行われる国民投票に向けて、離脱支持が45%と残留支持(42%)を上回った事が報じられると、リスクオフムードが広がり、NZドル/円は下値を切り下げた。
23日	この日に行われている英国のEU離脱を問う国民投票について、複数の英世論調査において残留支持が離脱支持を上回っていた事から、残留期待が高まり、欧州・米国株が上昇。この中でNZドル/円も堅調に推移した。
29日	NZドル/円はNZ統計局のNZ-1-3月期失業率の修正(5.7%→5.2%)を受けて一時72.60円台まで値を上げたが、その後は円が全般的に買われる流れとなったため、上げ幅を縮小。ただしその後、英国のEU離脱に関する初期の恐慌状態が落ち着く中で欧米株が堅調さを見せると、NZドル/円は反発した。

NZD/JPY

日経平均

OPEN	17097.22
HIGH	17145.95
LOW	14864.01
CLOSE	15575.92

NYダウ平均

OPEN	17754.55
HIGH	18016.00
LOW	17063.08
CLOSE	17929.99

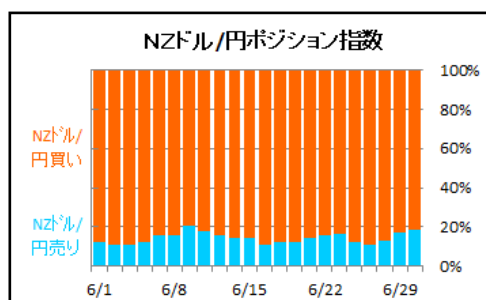
上海総合指数

OPEN	2917.154
HIGH	2945.942
LOW	2807.597
CLOSE	2929.606

NZ10年債利回

OPEN	2.601%
HIGH	2.671%
LOW	2.298%
CLOSE	2.351%

6月のポジション動向



7月のNZの注目イベント

- ・NZフォンテラ入札(5日、19日)
- ・4-6月NZ消費者物価指数(18日)
- ・6月NZ貿易収支(26日)
- ・6月NZ住宅建設許可(29日)
- ・ウィーラーRBNZ総裁、講演(25日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

7月の見通し

今月はNZ中銀(RBNZ)の理事会の予定はない。しかし、NZのキー首相は「(英国のEU離脱に関し)事態が大きく悪化するならば、RBNZには利下げ余地がある」などと述べており、英国のEU離脱交渉に関する動向がRBNZの金融政策にも大きな影響を及ぼす要因として注目される。ただし、英国とその周辺国の交渉は一朝一夕にカタがつくものではない。6月末から見られている「リスク回避ムードの緩和」状態が7月も継続する限りは、NZドルは対円で上昇する余地があると見られる。一方、英国の先行き不透明感や、その他の国への経済下押し要因が強く意識されるような新規材料が出てきた場合は、リスクオフの円買い・資源国通貨売りに加え、RBNZの利下げ観測も絡めてNZドル/円が急落する事もあり得る。依然としてボラティリティの高い相場になる可能性があり、引き続きリスク管理が非常に重要な局面と言えそうだ。

なお、NZの経済指標においては、特に4-6月期消費者物価指数が注目される。これが市場予想を下回れば、「利下げをしやすくなった」と受け止められ、NZドル売りが強まる材料となろう。(石川)

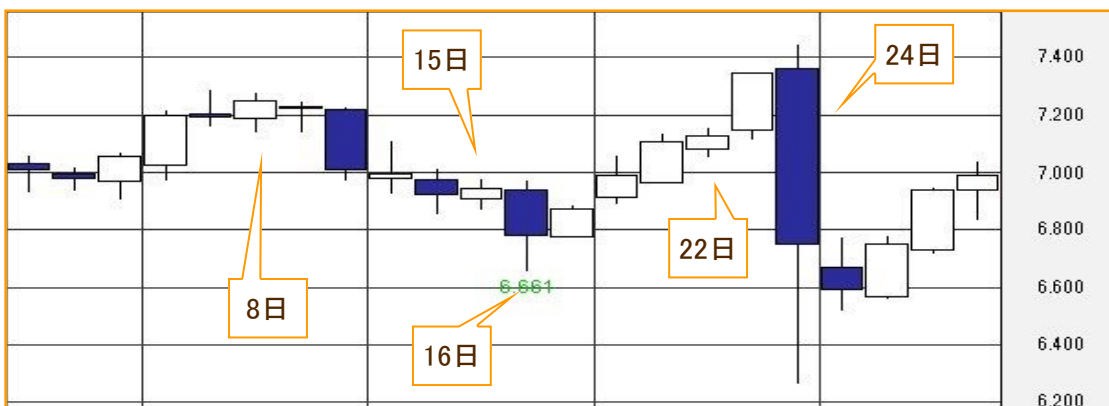
(予想レンジ: 71.500~76.500円)

ランド/円 6月の推移

ZAR/JPY

6月のランド/円相場は6.271～7.445円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.7%の下落(ランド安・円高)の推移となった。

この月のランド/円は、ほぼ英国の欧州連合(EU)離脱を問う国民投票に対する思惑の中でのリスクオン・オフに振られる展開。世論調査でEU離脱支持が優勢と伝えられるとリスクオフムードが広がり、ランド/円は下落。EU残留支持が優勢と報じられると、ランド/円は上昇……という値動きとなった。23日に行われた英国の国民投票が24日に開票され、EU離脱派勝利となると、全世界的にリスクオフムードが急速に強まり、ランド/円は6.271円と1月以来の安値を付けた。ただ、初期の混乱に一服感が出てきた28日以降は徐々に値を戻し、ランド/円を1カ月で見ると、ほぼ横ばい、という結果になった。



四本値

OPEN	7.034
HIGH	7.445
LOW	6.271
CLOSE	6.995

8日	南ア1-3月期GDPが前期比年率-1.2%と市場予想(-0.1%)を下回った事を受けて一時下落する場面も見られたが、その後格付け会社フィッチが一部の格下げ予想に反して南アの格付けを「BBB-」で据え置き、見通しも「安定的」とした事を好感してランドは上昇した。
15日	南ア4月小売売上高が前年比+1.5%と市場予想(+2.5%)を大きく下回ったが、ランドに目立った反応は見られなかった。
16日	日銀が金融政策の据え置きを発表すると、大方の予想通りではあったものの、円高が進行。さらに、23日に行われる英国の国民投票に向けた世論調査において、EU離脱支持が優勢である様子が伝えられる中、ランド/円は6.661円まで下値を切り下げた。
22日	南ア5月消費者物価指数は、前年比+6.1%(市場予想:+6.4%)、コア前年比は+5.5%(同:+5.6%)と市場予想をそれぞれ下回る結果となった。しかし、ランドに目立った反応はなかった。
24日	23日に行われた英国の国民投票において、開票が進む中で徐々にEU離脱が濃厚になって行く様子が報じられると、リスク回避ムードが強まり、ランド/円は急落。実際に離脱派勝利見込みが伝えられると、6.271円と、1月以来の安値を付けた。

日 経 平 均

OPEN	17097.22
HIGH	17145.95
LOW	14864.01
CLOSE	15575.92

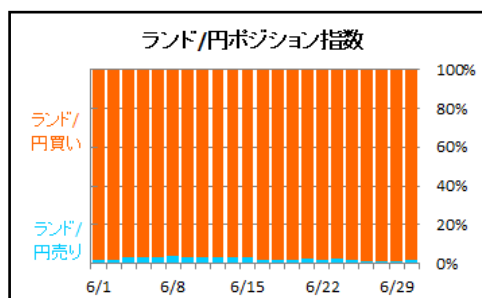
NYダウ平均

OPEN	17754.55
HIGH	18016.00
LOW	17063.08
CLOSE	17929.99

N Y 金

OPEN	1217.90
HIGH	1362.60
LOW	1208.20
CLOSE	1320.60

6月のポジション動向



7月の南アフリカの注目イベント

- ・5月南ア小売売上高(13日)
- ・6月南ア消費者物価指数(20日)
- ・SARB政策金利発表(21日)
- ・6月南ア生産者物価指数(28日)
- ・6月南ア貿易収支(29日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

7月の見通し

6月に引き続き、英国のEU離脱に絡んだ市場全体のリスクオン・オフのムードを掴む事がランド/円の方向感を探る上で最も重要となつてこよう。英国とユーロ圏のEU離脱交渉は一朝一夕に終わるものではなく、進捗や交渉ステップについては不透明感が非常に強い。6月下旬のような、初期のリスク回避ムードが一服した中であれば、ランド/円がジリ高歩調を継続すると見られる一方、ひとたび先行き混迷の色が強まって市場がリスクオフに傾けば、ランド/円には急激に下押し圧力が掛かる可能性がある。特に、南アフリカは国内の経済が良くない状況が続いており、南ア中銀及び国際通貨基金(IMF)は2009年(リセッションとなった)以来の低成長を見込んでいる。実際、6月に発表された1-3月の南アフリカの国内総生産(GDP)は前期比年率-1.2%と大きなマイナス成長となった。加えて、同国の消費者物価指数はここ数カ月は上昇率が縮小傾向で、インフレターゲット(3-6%)のレンジに接近しつつある(5月:前年比+6.1%)。20日発表の6月南ア消費者物価指数がインフレターゲット内に収まれば、利上げ圧力は大きく後退し、南アランドにとっては買い要因がさらに減る形になる。リスクオフムードが強まった際の下げは、リスクオンムードに市場が切り替わった際の上昇に比べて、大幅なものになりそうだ。(石川)

(予想レンジ: 6.500~7.300円)